

令和3年度作文コンクール

安全振興会では、生徒の皆さんの安全意識の向上を図るために、「安全」又は「健康」をテーマに作文コンクールを実施しています。今年度も素晴らしい作品が多数寄せられました。井上謙委員長、高梨智副委員長、清野史康、米山謙、程島宏美、平松和夫委員の6人の元校長先生に審査をお願いしました。最終選考会では、最優秀2編、優秀7編、佳作42編が決定されました。この中から最優秀に選考された作品を掲載しました。

最優秀賞

献血という架け橋を

県立新城高等学校 一年

岩本 依澄

「あなたの勇気が命を救います！」
人が絶えない駅前広場。幼い頃、他人事のように聞いていた言葉だったが、高校生になった今では聞き流せない言葉となった。

ある日、高校生の兄は腕に絆創膏を貼って帰ってきた。病院にでも行ったのかと聞くと、献血に行ったのだという。献血という言葉ぐらいしか知らなかった私は兄の話聞いて、その重要性を知るとともに、自分も協力したいと思った。しかし、十六歳という年齢に達していなかった頃の私にはどうすることもできなかった。

現在、新型コロナウイルスが猛威を振るっている中で血液の供給が必要になっている。なぜなら、感染拡大に伴って、さまざまな場所での献血バスの受け入れが相次いで中止となっており、献血協力者が減少しているからだ。それに加え、高齢化の進む日本において、年々多くの高齢者が血液を必要としているという事は重要な問題である。しかしながら、若者の献血への認知度は低く、この十年で供給量は約三パーセントも落ち込んでいるという実態がある。

科学的な進歩によって血液が人工的に作られたり、長期保存することができたりすれば、献血の必要性も無くなる。しかし、そこまで至っていない今、私たちが血液を必要としている人へ安定的に血液を供給するには、一時的に偏ることなく、継続して献血に協力するほかに方法は無いのだ。

「献血は不要不急ではありません。」

と書かれた見出し。この言葉は今まさに若者へのメッセージだと思う。最近では、関心を高めようと若い人が駅前呼びかけを行うなどの活動も見られる。これからの未来、必要とする血液の量は増える一方で、供給量が少なくなると、誰かの命を縮めることになってしまう。助かる命も助からなくなってしまう。新型コロナウイルスがまん延する今、献血は私たちが進んで取り組んで行かなければいけない課題であるといえる。

今年で私は高校生になった。そして十六歳という壁を乗り越えて、献血という大役を務めようと思う。私の体から採られた血液はいつ、どこで、誰に渡るのかは分からないが、この勇気が多くの命を救えることに誇りを持って協力したいと思った。

人はつい自分中心で物事を考えてしまう。「自分には関係ないから」と逃げてしまっている人が非常に多い。でも考えてほしい。自分を守りたいという気持ち他人も同じだということ。輸血を求めている人、献血を呼びかける人。この声が少しでも多くの人に届いて、少しでも多くの人が行動することで、命を繋ぐ架け橋になってほしい。

最優秀賞

私がすべきこと

県立海老名高等学校 一年

大槻 莉実

なぜこの世界からいじめはなくならないのだろうか。なくすることは不可能なことなのだろうか。小学校の頃からいじめについてたくさん考えさせられる機会があった。高校生になった今でもいじめはなくなっていない。その度に私は、どこか心の奥でなくすることは無理なのではないかと思ってしまう。

人は、その人にしかない個性があつて、誰一人として同じ人などいない。間違いなくそれは当たり前のことであり、素敵なことだと思つて居る。間違いないが、あることももちろんだらけで、自分にとって居やすい場所、落ち着く場所が誰にでもあつていい。周りと違うことは当然のこと。なにもおかしくないのに、それを理由にいじめてしまうのはどうしてだろうか。なにもかも周りと同じなんて有り得ないし、つまらない。

もし、この世界にいる人が全員顔も体格も考え方も全く一緒であつたら、どうなつてしまふのだろうか。一つの考え方が産まれない。物事に対して客観的に見ることが出来ない。間違つた方向に進んでいても気づかない。誰も止めてくれない。新しい考え方に気づかない。そのような最悪な世界になつてしまふ。しかし、いじめは決して起きないのだから。

今の時代、SNS上でのいじめも起つている。誹謗中傷や批判が当たり前に飛び交う時代。相手の顔が見えないだけで、知りもしない会つたこともない人を叩いたり、いじめたり。それが原因で亡くなつた人もいる。相手の気持ちは考えず、ただ好き放題誹謗中傷を浴びせた人達はただの殺人者ではないか。SNSに生きがいを感じている人、SNSが落ち着く場所であるという人もいるのだから。それもある人、SNSが楽しい時代だからこそある個性だと思つて。私もSNS上の人達を見て楽しんだり、元気をもらつたりすることもあつた。ただ、その中でも見て不快になるコメントや、ありもしない偽装の動画や画像もゴロゴロと転がっている。それを見る度に悲しい気持ちになる。それが多々あつた。それが当たり前の時代で生きていく私達は、絶対に同じことをしてはいけないし、何が本当で何が嘘なのかを自分でしっかりと見極めなければならぬと思つている。

さらに私は、自分の意見をしっかりと言う勇気が欲しい。例えば、いじめを目の前にした時、特別仲がいい友達ではなくても助けてあげられる勇気があるのだろうか。もしかしたら自分もいじめられてしまつてもいいと思つて、見て見ぬふりをしてしまふのかもわからない。しかしそれは、いじめている人と変わらぬ。そのようなことは分かつていても勇気が出ない人などたくさんいると思つて。それでも私はそのたくさんに入つたまま嫌だし、世界からいじめを完全に無くすことが難しくても減らすことは絶対にできると思つて。それが一人一人の勇気で変わると思つて、自分の意見を周りの目に囚われず伝えられる人になりたい。誰かの安心を守りたい。